

生活習慣病における 免疫・代謝・神経系の連携機序

眞鍋 一郎 先生

千葉大学大学院 医学研究院
長寿医学講座 教授



日時

2019年
7月22日 月 18:00～

場所

B講義室 (外来診療棟5階)

<講演要旨>

最近、様々な組織の恒常性維持に、従来考えられてきた以上に間質細胞(線維芽細胞、血管細胞、免疫細胞等)や、神経系や代謝内分泌系を介した全身的な機序が重要な役割を果たしていることが明らかとなってきた。また、心腎連関に代表されるように、複数臓器間での病態の相乗的な進行は、臨床的にも大きな問題となっている。組織レベルでも、例えば心筋組織は、心筋細胞だけで構成されているのではなく、間質には多数の線維芽細胞、免疫細胞、密な血管網や神経終末が存在し、これらの多様な細胞の相互作用によって心筋の恒常性が維持されていると考えられる。我々は心臓にも恒常的に組織マクロファージが存在すること、心臓組織マクロファージが心臓圧負荷への適応的な応答に重要であることを見いだした。腎臓においても、上皮細胞、マクロファージ、血管内皮細胞の相互作用がストレス応答に重要である。さらに、心臓組織マクロファージの制御に、神経系を介した心臓と腎臓の連携が寄与することを見いだした。一方、代謝疾患においても免疫系との連携が鍵となる働きをする。このような複数システムの連携による組織恒常性の維持と病態発症機序について報告したい。

担当：糖尿病・内分泌内科学部門 教授 小川 渉

主催：シグナル伝達医学研究展開センター

連絡先：研究支援課研究企画係 (内線5195) E-mail: k9shien@med.kobe-u.ac.jp